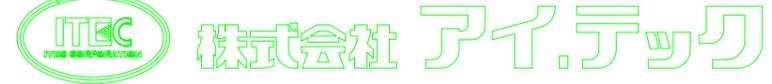


アイ.テックSデッキ 合成スラブ設計・施工標準仕様書（共通仕様）

本仕様書に定めなき事項は、下記に準じるとする。
 (独) 建築研究所監修 「デッキプレート床構造設計・施工標準-2018」
 (社) 日本建築学会編 「各種合成構造設計指針・同解説」
 合成スラブ工業会編 「合成スラブの設計・施工マニュアル」
 アイ.テックSデッキ 「カタログ」「耐火認定書」



設計		●印を記入(コピーしてお使い下さい)	
材	合成スラブ用 デッキプレート	山高 板厚	□50 □75 □1.2 □1.6
		表面処理 種類	□黒皮 □カラー □Z12 □Z27 □その他() JIS G 3352に定めるSDP1T, SDP1Tにめっきを施したものを、SDP2, SDP2G
料	コンクリート	種類 設計基準強度 厚さ (デッキ山)	□普通 □軽量1種 □軽量2種 □18N/mm ² □21N/mm ² □24N/mm ² □その他() □70 □80 □85 □90 □95 □100 □その他()
	ひび割れ拡大 防止筋	溶接金網 異形鉄筋 (JIS G 3117)	□φ6-150×150 □φ6-100×100 □CD6-150×150 □CD6-100×100 □D10-200×200 □その他()
接 合	□焼抜き栓溶接 □頭付スタッド □発射打込み筋 □その他	□SPW : 標準溶接径 18mm以上 □PW, APW : 標準溶接径 25mm ※溶接位置等は特記による	
	中固支保工	□有 □無	

耐火構造		□床1時間耐火 □床2時間耐火 □指定なし					
デッキプレート	耐火時間	名称および耐火認定番号	コンクリート 山とデッキ 間の厚さ (mm)	スパン (m)	許容積載荷重算定式 (N/m ²)	ひび割れ拡大防止筋	耐火 補強筋
S50	2時間	連続支持合成スラブ □FP120FL-9136	普通 (95以上)	2.7以下	5400×(2.7/L) ² かつ9800N/m ² 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要
		単純支持合成スラブ □FP120FL-9137	普通 (85以上)	2.7以下	5400×(2.7/L) ² かつ9800N/m ² 以下	φ6-100×100 D10-200×200	D13
	1時間	連続支持合成スラブ □FP060FL-9138	普通 (80以上)	3.0以下	5400×(2.7/L) ² かつ9800N/m ² 以下	φ6-150×150 D10-200×200	不要
		単純支持合成スラブ □FP060FL-9139	普通 (80以上)	2.7以下	5400×(2.7/L) ² かつ9800N/m ² 以下	φ6-150×150 D10-200×200	D13
S75	2時間	連続支持合成スラブ □FP120FL-9136	普通 (95以上)	3.4以下	5400×(3.4/L) ² かつ9800N/m ² 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要
		単純支持合成スラブ □FP120FL-9137	普通 (85以上)	3.4以下	5400×(3.4/L) ² かつ9800N/m ² 以下	φ6-100×100 D10-200×200	D13
	1時間	連続支持合成スラブ □FP060FL-9138	普通 (90以上)	3.4以下	5400×(3.4/L) ² かつ9800N/m ² 以下	φ6-150×150 D10-200×200	不要
		単純支持合成スラブ □FP060FL-9139	普通 (80以上)	3.4以下	5400×(3.4/L) ² かつ9800N/m ² 以下	φ6-150×150 D10-200×200	D13

施工

(1) 割付計画 工法・工程・割付計画をたてる (図-1)

(2) 搬入・保管 搬入・保管 搬入・保管 (a) 荷重は2点吊りとし、デッキプレートをワイヤーで傷つけないようにする。(b) デッキプレートは梁上に安全な状態で仮置きし、風などで飛ばされないように養生する。

(3) 搬出し (a) 梁上を清掃し、所定の位置に搬出をする。(b) デッキプレートの受け材の有無を確認する。

(4) 敷込み 仮止め (a) デッキ相互を嵌合させる。(図-1) (b) 幅方向の調整は、調整板を用いる。(図-8) (c) 梁上にデッキ山部がこないようにおさめる。(図-2) (d) 鉄筋コンクリート造に使用する場合は、型枠材に止める。(図-3) (e) 頭付スタッド (デッキプレートと梁とは、アークスポット溶接などで接合する。)(図-4) (図-3) (b) 焼抜き栓溶接 (SPW-溶接による工法) 溶接電流の確認: 検流計または溶接棒の消耗長さでチェックする。未使用の低水素系電極アーク溶接棒4mmφを用いて、アーク長さを約3mmに保持しながら、10秒間溶接したときの溶接棒の消耗長さが45~53mmであることを確認する。 ●自動焼抜き栓溶接 (APW-半自動溶接による従来工法) (c) 発射打込みびよう (発射打込みびようの施工要領書による) (図-4) (c) 発射打込みびよう (発射打込みびようの施工要領書による) (図-4) (c) 小口ふさがはデッキプレートの谷(溝)を塞がない自立したものを使用する。(図-6)

(6) 小口ふさが コンクリート止め

(7) インサート工事 配管・配線

(8) 開口部補強

(9) 配筋

(10) 検査

(11) コンクリート 打設

(12) 養生

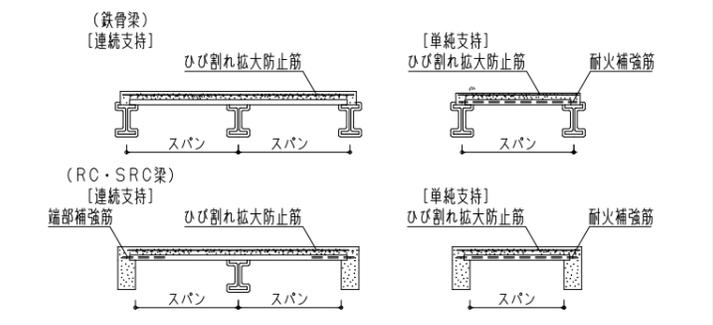
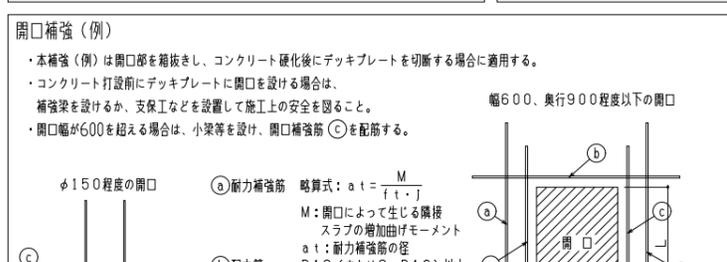
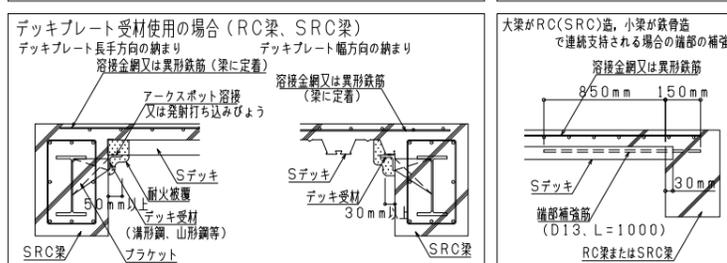
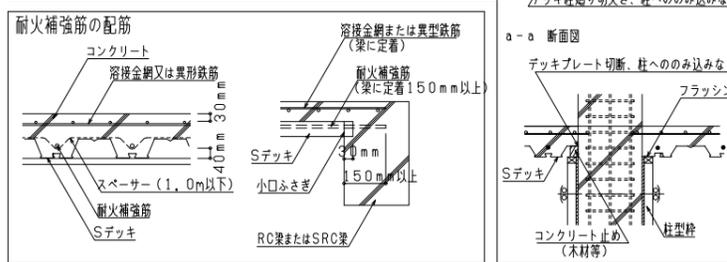
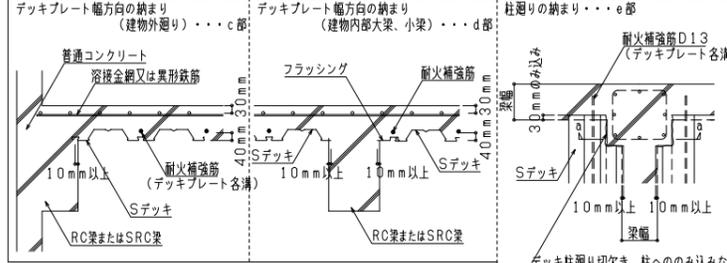
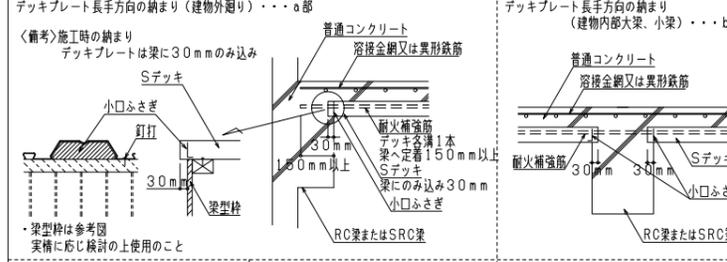
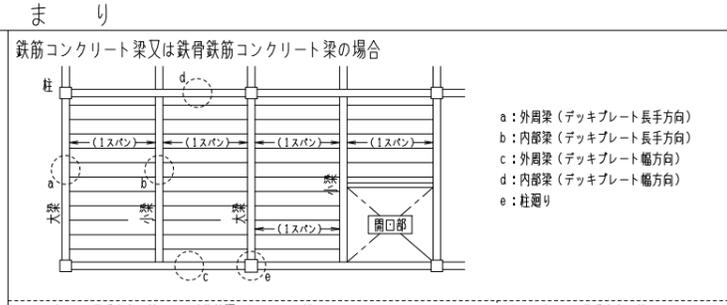
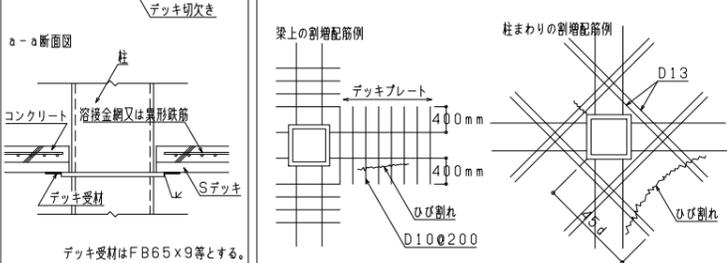
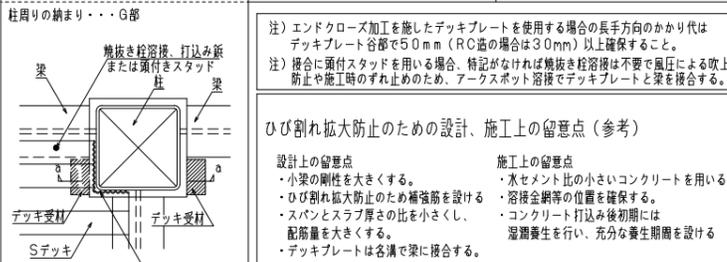
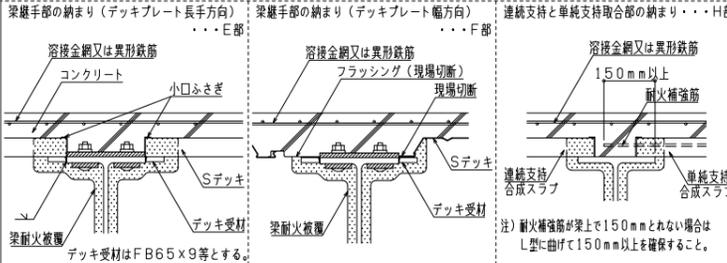
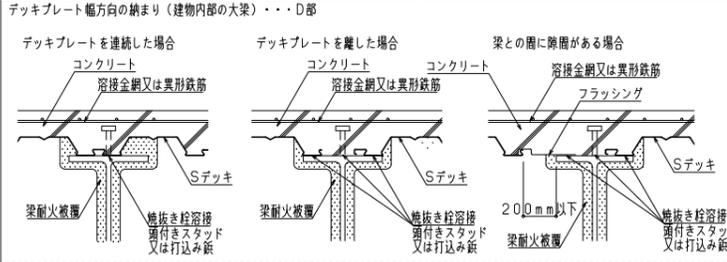
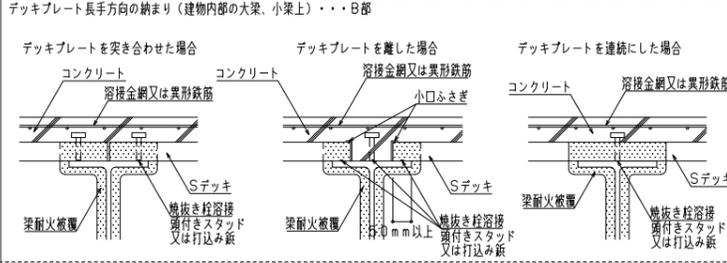
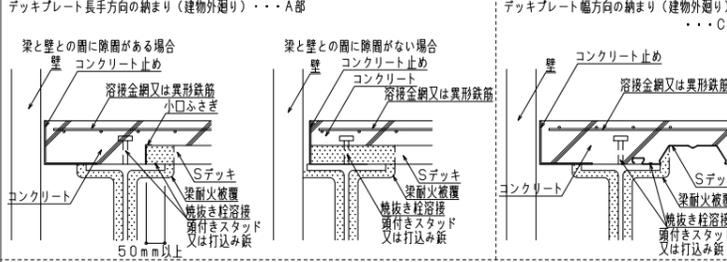
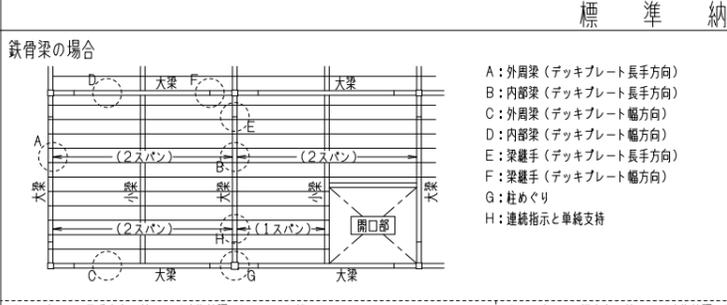
開口部のまわりは必ず鉄筋などで補強する。
 (a) 規定のサイズのひび割れ拡大防止筋を梁上を含む床全面に配筋する。
 (b) コンクリート打設後、ひび割れ拡大防止筋を梁上を含む床全面に1m以内に配置する。
 (c) 溶接金網の継手は1メッシュ×50mm以上重ねる。(図-7)
 (d) 耐火補強筋が必要な仕様の場合は、耐火補強筋(D13以上)を各谷部中央に1本ずつ、デッキプレート底面から40mmの位置に配筋する。
 (e) FP120FL-9136, FP060FL-9138仕様のRC造またはSRC造で小梁が鉄骨造の場合は、端部補強筋(D13以上、長さ1000以上)を大梁との接合部に配筋する。
 コンクリート打設前に、本標準仕様書とあることを確認する。(チェックシートの活用など)
 (a) コンクリート打設前にデッキプレート面を十分に清掃する。
 (b) 設計コンクリート厚さを確保する。
 (c) 単位水量の少ないスラブの小さいコンクリートを入念に打設する。
 (a) コンクリートの初期の乾燥収縮を防ぐため、湿潤養生をする。
 (b) コンクリートの強度がでるまでは床面に重重量を置いたり振動を与えたりしない。

●デッキプレートの幅方向 接合部2ヶ所 中間1ヶ所 接合部2ヶ所
 ●デッキプレートの長手方向 接合部1ヶ所 中間1ヶ所 接合部1ヶ所
 ※接合に頭付スタッドを用いる場合、デッキプレートと梁をアークスポット溶接(デッキプレート各溝)で接合する。頭付スタッド貫通溶接部も同様とする。

●焼抜き栓溶接、発射打込みびよう
 PW: 特記なき限り600mm以下とする (図-4)

●重なり 溶接金網又は異形鉄筋の重ね代

●「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」による



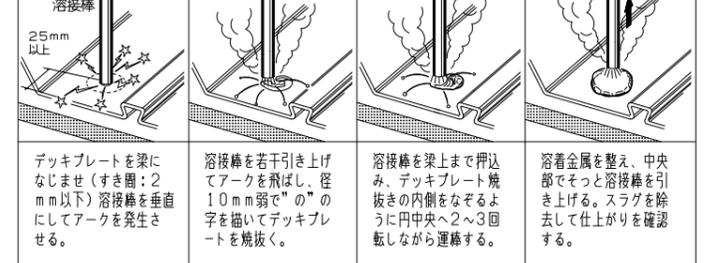
項目	溶接方法	焼抜き栓溶接 (SPW)	
		溶接工資格	JIS Z 3801 基本級以上 JIS Z 3841 基本級以上
溶接機	溶接機	低水素系溶接機φ4mm	
電源容量	電源容量	交流アーク溶接機AW250A以上 エンジン溶接機230A以上	
デッキ板厚 (mm)	デッキ板厚 (mm)	1.2~1.6	
溶接電圧 (V)	溶接電圧 (V)	190~230A (標準210A)	
溶接時間 (秒)	溶接時間 (秒)	8秒程度 (標準210A)	
余盛り径 (mm)	余盛り径 (mm)	18mm以上	

標準溶接条件

溶接1個当たりの許容せん断力 (長期) N/個

デッキ板厚	1.2	1.6
SPW	4900	7350
APW	4900	6860
打込み筋	3300	4300

(図-5)



- *1 : コンクリート厚さが表中の数値を超える場合、超えた分の荷重は積載荷重として算出する。
 *2 : 支持梁との接合を示す。中間梁との接合は耐火認定の仕様による。
 *3 : Lは図の支持スパン (m) を示す。
 *4 : ひび割れ拡大防止筋は表中の数値以上のものとし、鉄筋量はコンクリート厚さに対する鉄筋比0.2%以上とする。
 *5 : 耐火補強筋 (D13以上) は各溝中央部に1本ずつ、デッキプレート底面から40mmの位置に全スパンにわたって配筋する。
- 1) : 許容積載荷重が常温時の計算によって決まる場合があるため、耐火仕様の常温時の算定値の小さい方を許容積載荷重とする。
 2) : 許容積載荷重は建築基準法施行令第85条の積載荷重と床・天井などの仕上げ荷重を加えたものとする。
 3) : 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上の連続的な小梁などによってほぼ等間隔に支持されたものとする。
 4) : ひび割れ拡大防止筋は原則としてスラブ上端から30mmの幅を確保する。
 5) : 梁に1.2または3層の耐火性能が要求される場合は、それらに応じた耐火被覆を梁に行う。
 6) : スパンが大きい場合やコンクリートが厚い場合、コンクリート打設時に中固支保工が必要となるため、計算等により許容スパンを確認する。
 7) : 耐火認定条件に適合しない場合は、取付ロックワール等の耐火認定に合う。